

# 若手・女性研究者奨励金にご支援を賜りました 寄付企業法人や寄付者の皆様へ



## 受賞者から御礼の言葉

2020年度（第3回）若手研究者奨励金 受賞者  
〔※2021年度への繰越し申請をした受賞者〕

# 伊藤 栄

獨協医科大学 医学部 助教

〔研究課題名〕

レーザー虹彩切開術による水疱性角膜症の病態解明

－抗酸化物質としてのアスコルビン酸の眼内での働きについて－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究が開始となった2020年4月は新型コロナウイルスが世界的に猛威を奮い始め、国内でも広がり始めた時期でした。新しく研究を開始しようとした矢先に、関東でも緊急事態宣言が発令され、研究室がある東京と、私が勤務している栃木との往復が出来なくなってしまいました。皆さんもご承知の通り、その後も度々緊急事態宣言が発令され、また病院勤務のため移動の自粛も余儀なくされました。研究予定が大幅に狂ってしまい、研究期間を1年間延長させて頂きました。ご高配頂きました関係各位の皆様には大変感謝申し上げます。

研究も今年に入り、やっと軌道に乗ることが出来たかと思えます。まだ研究途中ですが、今後皆様のお役に立つような、研究内容に発展させることができるよう精進して参りたいと存じます。新型コロナウイルスで辛い思いをされている方が未だたくさんおり、1日も早い終息を願うばかりです。この度はご支援いただきまして誠にありがとうございました。

# 高橋 徹

実践女子大学 生活科学部 助教

〔研究課題名〕

就活生が自己理解を行うための対話型ソフトウェアの開発・評価

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は若手研究者奨励金を授与していただき、誠にありがとうございました。

この研究は若者がキャリアを前向きに考え、生き生きとした人生を歩むことに貢献するものです。今後さらなる研究を行うことで、一日も早く成果を就職に悩む若者に届けたいと考えています。また、この研究をきっかけに、よりアプリを使った自己理解を深める方法が増えることにより、若者が身近に自己理解に関心を向ける機会が増える社会になってほしいと考えています。

# 池上 真平

昭和女子大学 人間社会学部 心理学科 専任講師

〔研究課題名〕

上下方向・左右方向のリズム運動をもたらす音楽の特徴の解明

－音楽家・聴取者双方に焦点をあてた実験心理学的研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

これまで「音楽はどのようにして身体や感情にはたらきかけるのか。背後にどのような心的プロセスがあるのか」といったテーマに関する研究に継続的に取り組んで参りました。そのようなテーマで研究していると、「面白いテーマだけど、それがわかって何の意味があるのか」といった疑問を投げかけられることがあり、「自分の研究がどのように社会に活かせるのか」ということを常々意識して研究を行って参りました。今30代半ばを迎えて、「研究者として如何に社会に貢献するのか」という意識は以前にも増して強くなっています。本課題の研究テーマについても、最終的に社会での実践に結びつけていきたいと考えております。具体的には、まずは本課題で得られた研究成果をもとに、身体運動を促す音楽の特徴や背後にある心的プロセスの解明を進めて参ります。そして将来的には科学的根拠に基づく成果物として、教育現場や医療現場等で活用可能な楽曲という形で具現化していきたいと考えております。

この他、実証研究による科学的知見の蓄積を目指す一方で、正確な学術的知見をわかりやすく社会に伝えるための取り組みや、自治体等への助言も、機会があれば積極的に承っていく所存です。

この度はご支援を賜りましたこと、誠に有難うございました。衷心より御礼申し上げます。皆様方のご支援のおかげで、実験実施のための機器、データ解析用ソフトウェア、研究結果を解釈・考察するための文献といった環境を整えた上で、研究を遂行することができました。本研究はコロナ禍で当初の計画から大幅な変更が必要になりましたが、工夫をして実験を行い、「上下方向の身体の動きをもたらす音楽と左右方向の動きをもたらす音楽の間には産出・認知の両面で違いがある」という重要な知見を得ることができました。今回得ることができた知見を礎にし、今後さらに研究を発展させて、教育現場や医療現場をはじめとした社会で活用できる成果を上げていけるよう、精進を続けて参ります。

# 小山 孟志

東海大学 スポーツ医科学研究所 講師

〔研究課題名〕

速度に基づいた筋力トレーニングにおける至適負荷の検討

寄付者の皆様へ〔御礼〕

アスリートを対象としたスポーツパフォーマンス向上、とりわけ筋力トレーニングの方法論に関する研究は、最終的には若年者から高齢者まで幅広い対象のライフパフォーマンス向上にも繋がる汎用性の高い研究であると確信しております。速度を基準とした筋力トレーニングは、本邦ではまだ限られたスポーツ現場でしか実践されていない現状であるにも関わらず、本研究の可能性をご理解いただき、ご支援賜りましたことに心より感謝申し上げます。今回の成果を糧に今後も継続してトレーニング法や評価法の研究を進めていく所存です。

本研究の遂行にあたり、ご支援いただきました皆様に改めて感謝の意を表します。

# 江口 貴子

東京歯科大学短期大学 助教

〔研究課題名〕

フッ素歯面塗布後の酸蝕症起因酸とpH濃度による象牙質耐酸性比較

寄付者の皆様へ〔御礼〕

近年、平均寿命の延長や口腔衛生への意識の向上により高齢者の残存歯数は増加傾向である。残存歯数の増加に伴い、歯根部象牙質が露出している口腔内が今後も増加することが考えられる。また、健康志向の意識の高まりは食生活習慣の変化をもたらし、食事における柑橘系果物の摂取量の増加や疲労回復効果を前面に出したクエン酸やリン酸などを含有する清涼飲料水の習慣的摂取により酸蝕症のリスクというのは、増加すると考えられる。今回の結果では酸蝕症起因酸により象牙質が溶解するという結果が得られたが、酸性食品類の摂取を制限するものではなく、フッ化物を上手に用いて口腔内の健康と酸がもたらす全身の健康の両立を目指してほしいと考える。今回の研究では歯科医院で用いられる9000ppmという高濃度フッ化物溶液を使用した。歯科医院にて塗布することにより酸蝕症予防ができると考えるため、定期的な歯科医院への受診を勧めたいと考える。また、低濃度にはなるが、歯磨剤や洗口剤に含まれるフッ化物も有効と考えられるため、対象者や患者のセルフケアに取り入れて頂けるよう周知していきたいと考える。

# 前本 佑樹

東京薬科大学 生命科学部 助教

〔研究課題名〕

希少修飾を介した革新的なチロシナーゼ活性制御メカニズムの解明  
－肌色をコントロールする薬剤の新規標的開発を目指した研究－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

この度は、コロナ禍により大学での実験が十分に行うことができない中、柔軟な予算対応をしていただきありがとうございます。本研究は目的の一つである長鎖アシル化の検出を行うことができたが、期間内にその明確な機能にまで迫ることができませんでした。一方で、まだまだ研究の余地は多く残されている状態です。

本研究のような、基礎的で萌芽的な研究のサポートをしていただける若手・女性研究者奨励金はとても尊い存在であると痛感しております。

私自身は、引き続き、翻訳後修飾に関する研究に邁進したいと考えています。

改めまして、今回ご支援くださいました皆様に感謝申し上げます。

# 桑原 千明

文教大学 教育学部 専任講師

〔研究課題名〕

母親のSNS上への自己情報の公開に関わる研究

— 公開実態の解明と公開実態に関わる要因の検討 —

寄付者の皆様へ〔御礼〕

日本私立学校振興・共済事業団およびご寄付いただきました関係者の皆様、調査に協力してくださった皆様、この度はお力添えをいただき誠にありがとうございました。

今回いただいたご支援により、母親のSNS上への子ども情報公開行動に関連する要因の検討ならびに適切な公開行動を目指す介入プログラムの作成を行うことができました。ご理解、ご協力をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

コロナ禍においては、直接人を対象に研究を実施することは困難を極めましたが、若手・女性研究者奨励金を頂いたことで、インターネット調査を活用し、ここまで研究を進めることができました。私自身も困難な状況の中でなお研究を進めることができたことで、状況に応じて思考し、行動する力を磨くことができたと考えております。

今後は子どもやその養育者の発達を支援する一助となれるよう、研究を進めるとともに社会へ還元できるよう努めてまいります。この度は誠にありがとうございました。今後ともご理解、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 守屋 正道

帝京平成大学 健康医療スポーツ学部 助教

〔研究課題名〕

意思を表出できない「寝たきり」高齢者のストレス評価

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究を理解して頂きご支援頂きました日本私立学校振興・共済事業団およびご寄付いただきました関係者の皆様に御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた施設での測定が不可となり、急遽別の施設へお願いし測定の許可を頂いた経緯がございます。1年間ではとても完遂することができませんでしたが、繰越し処置をして頂き何とか形にすることができました。

本研究では現場（病院や施設）で評価することを想定し小型で簡易的なものを実装すべく研究に取り掛かりましたが、対象者の体動や予期しない言動によって測定困難な場面も少なくありませんでした。今後は測定方法を検討するとともにディープラーニングによってストレス度を算出するようなシステムを構築できるよう進めていきたいと考えております。本研究を更に発展させ社会へ還元していくよう努めて参ります。

今後とも、継続的なご支援を宜しくお願い申し上げます。

# 石田 良仁

帝京科学大学 総合教育センター 講師

〔研究課題名〕

光分解性架橋点の導入による架橋ゴムの光分解

寄付者の皆様へ〔御礼〕

数年前に現在所属する大学に着任した際、研究設備も研究資金もほとんどなく、萌芽的な研究の予備実験などを行うことにも苦勞をしていました。そのような状況において、若手・女性研究者奨励金は大きな助けとなり、基礎的な研究や予備実験を積み重ねることで科研費の採択につながりました。若手・女性研究者奨励金を支援していただいている皆様に心より御礼を申し上げます。

数百万円を超えるような高額な研究助成でなくても、その中で十分におもしろい研究をすることができます。本研究テーマにおいても、高額な装置を使用しなくても、だれが見ても研究の成果がわかるものとして、「ゴムの分解」を取り上げています。写真を見れば、だれが見てもその研究の成果とおもしろさが分かります。

研究者の創意工夫でさまざまな萌芽的な研究が生み出されるこのような研究助成・奨励制度はとても価値のあるものだと考えます。今後も引き続き若手・女性研究者奨励金をご支援いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

# 越智 拓海

神奈川大学 理学部 特別助教

〔研究課題名〕

交尾経験が雄の性機能を司る脊髄神経ネットワークに与える影響

－脊髄性機能神経ネットワーク研究の基盤形成を目指して－

寄付者の皆様へ〔御礼〕

日本では、1,100万人以上の男性がED（性機能障害）に悩んでいると言われています。ストレス過多な現代社会では心因性のEDはQOLを下げる大きな一因です。男性性機能の調節メカニズムを明らかにしていくことで、EDや不妊治療に新たな可能性を示すことができると考えています。

本助成金は主にRNAseq法による解析の費用に使わせていただきました。網羅的遺伝子解析で得られたデータは様々な研究に発展する可能性を秘めていますが、コストが高いこと、単体では成果になりにくいこともあり、研究費の少ない若手研究者には手が出にくいものです。本助成金に採択いただいたおかげで交尾経験によって発現が変化する遺伝子のプロファイルを獲得することができ、今後10年の研究の基盤形成を行うことができました。

ご支援いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

# MARSZALENKO Jakub Eryk

名古屋外国語大学 世界教養学部 講師

〔研究課題名〕

法廷通訳人による「裁量的選択」と通訳の「正確性」に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

「若手研究者奨励金」に本課題を選定いただき、誠にありがとうございました。また、本制度へのご支援に深く感謝申し上げます。コロナ禍の最中でしたが、無事に研究を進めることができました。法廷通訳に関する理解を深め、学会や論文などで、より広い研究界に研究成果を報告することができました。今後、研究者のみならず、一般市民等にも法廷通訳を含む公益通訳翻訳の重要性及びその意義を理解してもらえよう、研究活動を通じて努力していきたいと思っております。

日本は今後、ますます国際化・グローバル化を進めていき、多言語・多文化のプロセスはもはや止まることはないでしょう。したがって、公益通訳翻訳の一環である法廷通訳の重要性もますます顕著になり、そして、その研究も不可欠なものであり続けると確信しています。今後も、研究者としてその発展に少しでも貢献できるように努力をしたいと考えています。

引き続き、研究者の活動を支援させていただきますよう、よろしくお願いいたします。

# 川中 洋平

広島国際大学 保健医療学部 医療技術学科 臨床検査学専攻 講師

〔研究課題名〕

尿細管上皮細胞形態を用いた新規腎機能評価手法の開発

寄付者の皆様へ〔御礼〕

これまでに解明され、系統化されている事でも、丁寧に掘り下げていくと新しい知見が得られることが往々にしてあります。既存の臨床検査においても、視点を変えることで新たな発見があると確信しています。自身の視点を大切に研究に取り組み、研究分野に貢献できる仕事ができるように広い視野を持って精進したいと思います。

この度は本研究課題に対して、若手研究者奨励金を授与していただき、誠にありがとうございました。ご理解、ご期待を頂きましたと共に、奨励金を賜りましたことに心より感謝申し上げます。本研究資金を得たことにより、限られた研究資金を何に分配し、どのように研究を進めると目標を達成できるか、また効率よく進行できるかを強く意識するようになりました。コロナ禍で、研究以外の業務の進行も考慮しながら、実験予定のことも考えるということができたので、大学教員の研究者としてステップアップができたと思います。一方で、本研究のような基礎的な研究が続けられるのは、多くの皆様に支えていただいているおかげですので、いつも感謝の気持ちを忘れず、社会的な責任感をもって今後も研究に邁進したいと思います。

最後になりましたが、本研究課題をご支援いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

# 池下 博紀

福岡国際医療福祉大学 言語聴覚専攻科 助教

〔研究課題名〕

健常高齢者における言語流暢性課題の検索方略と実行機能の関連性

寄付者の皆様へ〔御礼〕

今回いただいたご支援により、本研究の遂行に必要な環境を整備することができました。コロナ禍での研究活動はデータ収集等に一部制限が生じた面もありましたが、2年をかけて自身の研究を前に進めることができました。今回の結果はまだまだ小さな成果ではありますが、研究の成果を社会に還元できるよう、引き続き、精励する所存です。

最後になりましたが、今回、本研究の遂行にご支援をいただきました日本私立学校振興・共済事業団の関係者各位ならびにご寄付をいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

# 坂倉 真衣

宮崎国際大学 教育学部 講師

〔研究課題名〕

小学校教員養成課程における理数科指導力向上に関する研究

寄付者の皆様へ〔御礼〕

本研究に着手した2020年度は、コロナウイルスの感染が広がり、多くの大学における講義がオンライン授業へと変更された時期であった。本学教育学部も例外ではなく、教科に関する科目をはじめ、教職に関する科目における「学生の模擬授業」もオンラインでの実施に変更せざるを得なかった。特に理科は、実験や観察を行い、事実に基づいて仮説を検証することが求められる教科である。大学に来ることができず、理科室を使えない中で、どのように教育を行なっていくべきか、筆者自身、非常に悩んだ時期でもあった。

一方で、コロナウイルスの感染拡大で社会全体が混乱をする中、「科学的知識を使用し、課題を明確にし、証拠に基づく結論を導き出す能力」である科学リテラシーの重要性を再認識させられた。将来、初等理数科教育を担う学生の科学リテラシーを向上させることは、子どもたちの「理数離れ」を解決する手立てとなり、より良い社会づくりの一助となるであろう。

最後に個人的なことにはなりますが、私は学生時代から取り組んでいた博物館教育研究と、現在の所属先である教員養成大学で行う教育とを上手くつなげることができず、研究者としてこれからどのような方向性で研究を続けていくか迷いがありました。このたび若手研究者奨励研究としてご支援いただいたおかげで、これまでの研究と現在の教育とを結びつけ、新たに「小学校教員養成課程における理数科指導力に関する研究」に着手することができました。本当にありがとうございました。日本の科学教育を発展させることのできる研究者になれるよう、これからもより一層精進して参ります。